

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通経済統計調査室  
平成27年9月2日(水)公表

# トラック輸送情報

平成27年6月分

平成27年7月分は平成27年10月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 廣中、桑原   内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成27年6月分）

平成27年9月2日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：廣中、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## 1. 特別積合せ貨物

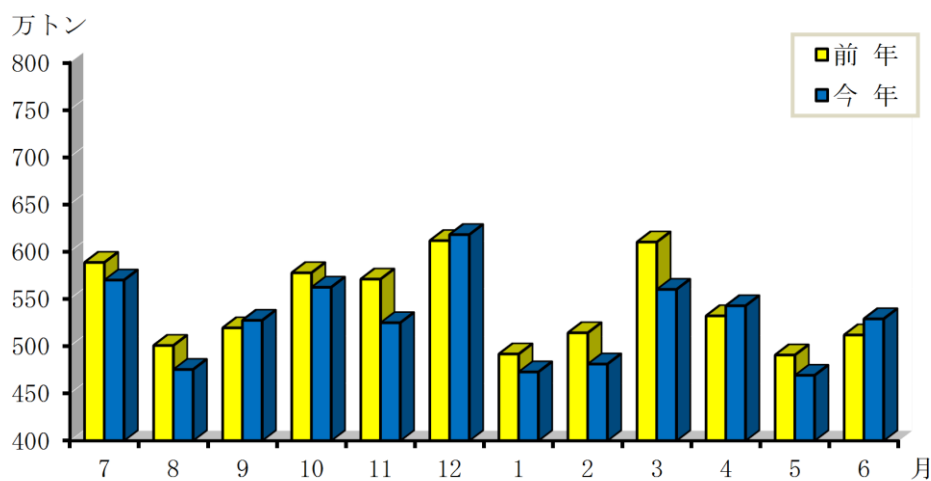
## (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,289,893トンで、前月と比べ総輸送量が約597千トン増加したため、前月比112.7%（季節調整済み103.6%）となり、前年同月との比較では、約170千トン増加したため、前年同月比103.3%の実績であった。

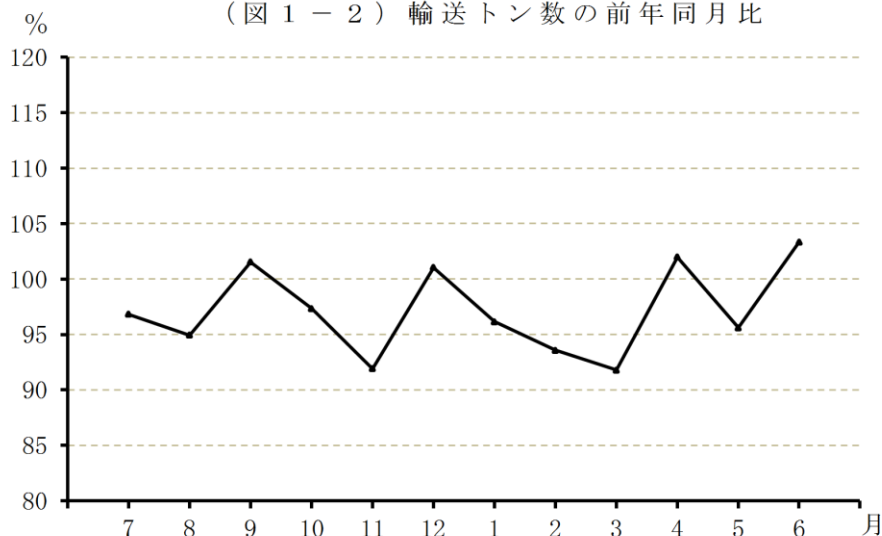
なお、平均稼働日数は25.2日で、前月と比べ2.9日増加し、前年同月との比較では、0.8日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、209,916トンで、前月と比べ約1千トン減少したため、前月比99.7%となり、前年同月との比較では、約0千トン増加したため、前年同月比100.0%の実績であった。

(図1-1、図1-2参照)

(図1-1) 輸送トン数の推移



(図1-2) 輸送トン数の前年同月比

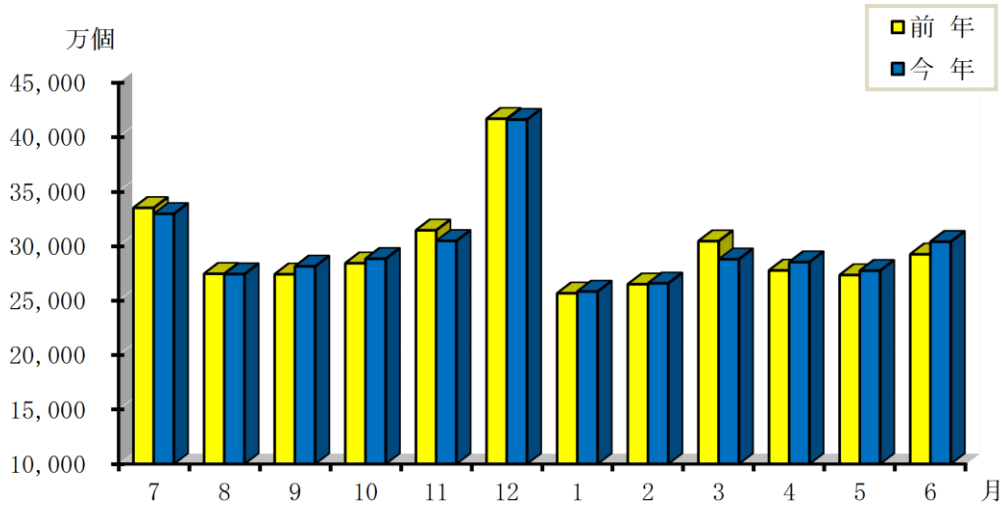


(2) 宅配便の概況

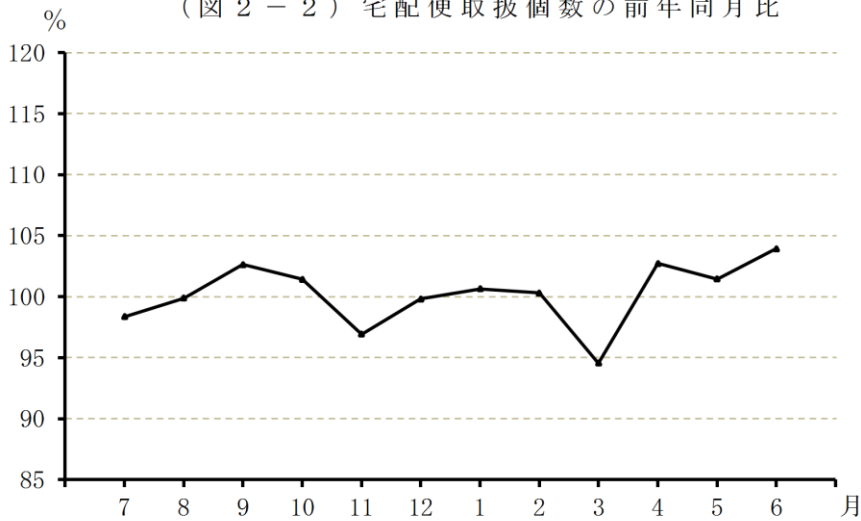
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 303,955 千個で、前月と比べ 約 26,570 千個増加したため、前月比 109.6% (季節調整済み 99.9%) となり、前年同月との比較では、約 11,517 千個増加したため、前年同月比 103.9% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、倉庫から出る貨物増が「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」で、季節的需要増が「機械」、「日用品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「機械」、「食料工業品」で輸送量が増加したと回答する事業者があった。その主な増加要因は工場・生産地からの貨物増で、「食料工業品」の増加地域は「関東」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	3	11	1	野菜、果物	4	
	金属製品	1	7	13			大阪、近畿	
	機 械		13	7		電気機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	
	化学工業品		11	10	1	合成樹脂	神奈川、関東、北陸信越、中部、近畿地方、中国	
	繊維工業品	1	7	13	1		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	
	食料工業品	2	6	12		その他の食料工業品	関東、北陸信越、愛知、近畿	
	日 用 品		11	11			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	
	そ の 他	1	11	8	1	その他(百貨店配送品)	全国	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	11	3			
	金属製品			3	15	3		
	機 械	1	4	13	2	機械部品	4	
	化学工業品			5	13	4	大阪	
	繊維工業品			4	15	2	1	中部
	食料工業品	1	3	14	2		関東	
	日 用 品			3	17	2		
	そ の 他	1	4	12	2	1		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者822社/調査対象事業者数1,005社)の輸送量は、前月比 107.5%、前年同月比 101.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.7 %	107.6 %	100.8 %	102.8 %	91.8 %	103.3 %	99.7 %	97.7 %	106.8 %	97.2 %	105.3 %	
前 月 比	107.5 %	115.8 %	108.4 %	110.3 %	100.2 %	107.6 %	110.2 %	109.9 %	104.6 %	97.5 %	93.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 115.8%、対前年同月比 107.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「穀物」、「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」が、また、「野菜・果物」、「その他の農産品」、「機械」、「セメント」及び「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、輸出入の貨物減により「石炭」が、建設関連の需要減により「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 108.4%、対前年同月比 100.8%であった。品目別では、季節的需要増により、「野菜・果物」、「食料工業品」が、建設関連の需要増により「砂利、砂、石材」、「その他の製造工業品」が増加したと回答する事業者があった。一方、「動植物性飼・肥料」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 110.3%、対前年同月比 102.8%であった。品目別では、「機械」、「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の農産品」、「鉄鋼」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 100.2%、対前年同月比 91.8%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」、「金属製品」が、季節的需要増により「食料工業品」が、また、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「化学肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 107.6%、対前年同月比 103.3%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 110.2%、対前年同月比 99.7%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 109.9%、対前年同月比 97.7%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」が、建設関連の需要増により「木材」が、また、「その他の化学工業品」、「その他の製造工業品」及び「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 104.6%、対前年同月比 106.8%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「野菜・果物」、「化学薬品」が、また、「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」及び「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」が、また、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 97.5%、対前年同月比 97.2%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」が、また、「畜産品」、「水産品」、「金属製品」及び「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「セメント」、「紙・パルプ」及び「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 93.8%、対前年同月比 105.3%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	4	2								1	7
	減		1		1							2
2. 野菜・果物	増	2	5				1	1	6	5		20
	減		2						4	7		13
3. その他の農産品	増	2					1	1				4
	減		1	1				1	1	1	1	6
4. 畜産品	増		1							4		5
	減									1		1
5. 水産品	増	1	2							4		7
	減		1			1			1	1		4
6. 木材	増	1	1		1			6	1	3	1	14
	減	2								3		5
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	4										4
9. 金属鉱物	増							1	1		1	3
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	15	3		1	1				2		22
	減	4			1				2	2		9
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1		1			1				4
	減	1				1			2			4
12. 鉄鋼	増	1	1		4				1	3	1	11
	減		2	1	1				3	3	1	11
13. 非鉄金属	増				1							1
	減											
14. 金属製品	増	1	1		4			1	1	6		14
	減				2	1	1	1	2	1	1	9
15. 機械	増	3	2	1		3	3	4		3	2	21
	減		1		1			4	4	2		12
16. セメント	増	5	1		1	1		2	2	2		14
	減	1				1		1	1	4		8
17. その他の窯業品	増	1	1					2	1	1		6
	減				1	1	1			1		4

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				1			1				2
	減											
19.その他の石油製品	増	1			1			2		2		6
	減	5	1					2	1			9
20.コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減	1										1
21.化 学 薬 品	増				1				3			4
	減											
22.化 学 肥 料	増									1		1
	減		1		2				1			4
23.その他の化学工業品	増							3	2			5
	減				1			1				2
24.紙 ・ パ ル プ	増		2	1		1	1		2	1	1	9
	減	2	2					1	1	3		9
25.織 維 工 業 品	増		1							1		2
	減					1			1			2
26.食 料 工 業 品	増	2	7	1	4		6	5	3	13	1	42
	減		2		2			2	4	3		13
27.日 用 品	増	1	1		2			3		1	1	9
	減	1	1	1			1	2	2	2	2	12
28.その他の製造工業品	増		4		1			2	1	2		10
	減				1		1			2		4
29.金 属 く ず	増		1					1				2
	減											
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	8							1	3		12
	減	2	2						1	2		7
32.廃 棄 物	増	1	1					2	2			6
	減		1			1			2	2	1	7
33.輸 送 用 容 器	増		1						1			2
	減											
34.取 り 合 せ 品	増		1							2	1	4
	減	1			1			2		1		5
35.そ の 他	増		3	1	1		5	4	1	4		19
	減	1	1		2		2	4		3	1	14